

ここは、〈しあわせ探し〉の案内所です——。

高齢であったり障害をもっていることで、毎日の暮らしにおいて介護やサポートが必要な状態になったとしても、1人ひとりの「楽しく心豊かに暮らしたい」というニーズを満たせる社会——。

それが、住みやすい地域社会づくりの基本条件といえるでしょう。

そんな地域社会づくりのあり方のひとつとして、住民参加型プラットフォームシステムは、公的・民間、団体・個人、有償・無償と、さまざまな生活支援のあり方から利用する人のニーズを満たすのに最適な方法へと導く、「案内所」の役割を果たします。

従来の福祉サービスの枠組みを超えて、住民間の〈共助〉の力を最大限に引き出すことで、住民のみなさんが、自分にぴったりの〈しあわせ〉を探し出すお手伝いをします。

特徴 1

マネジメント

いちばんいい方法を提案します。

相談に来た方の身体状況やライフスタイルに応じて、公的制度によるサービスや小地域ネットワーク活動、無償ボランティア活動、住民参加型在宅福祉サービスなど、多様なスタイルのサービスから、最もその人にふさわしいものを提案します。また、複数のスタイルのサービスを組み合わせることで、単独では限界のあった領域もカバーすることができます。

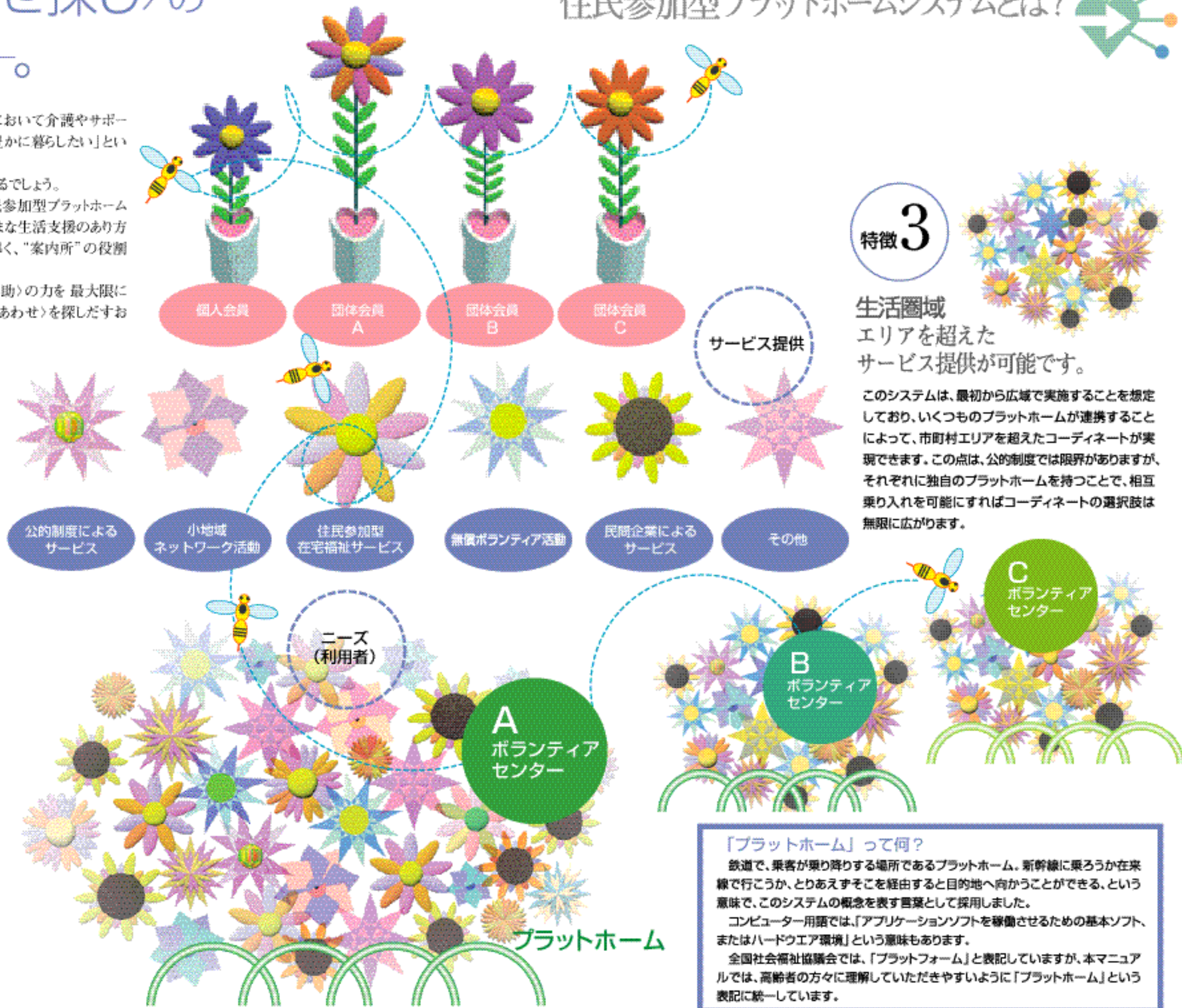
特徴 2

ネットワーク

最善のパートナーが選べます。

最大の特徴は、住民参加型在宅福祉サービスの分野において、多数の個人・複数の団体が登録する土台を用意することで、利用者側の選択によってサービスの担い手を選定できるようになったことです。料金はじめさまざまな側面から最善のパートナーを選定でき、また、最初に依頼した担い手が合わなかったり、サービス内容を変更する場合には、別の団体にケースを引き継ぐことも可能です。

住民参加型プラットフォームシステムとは？



特徴 3

生活圏域

エリアを超えたサービス提供が可能です。

このシステムは、最初から広域で実施することを想定しており、いくつものプラットフォームが連携することによって、市町村エリアを超えたコーディネートが実現できます。この点は、公的制度では限界がありますが、それぞれに独自のプラットフォームを持つことで、相互乗り入れを可能にすればコーディネートの選択肢は無限に広がります。

「プラットフォーム」って何？

鉄道で、乗客が乗り降りする場所であるプラットフォーム。新幹線に乗ろうかや在来線で行こうか、とりあえずそこを経由すると目的地へ向かうことができる、という意味で、このシステムの概念を表す言葉として採用しました。

コンピューター用語では、「アプリケーションソフトを稼働させるための基本ソフト、またはハードウェア環境」という意味もあります。

全国社会福祉協議会では、「プラットフォーム」と表記していますが、本マニュアルでは、高齢者の方々に理解していただきやすいように「プラットフォーム」という表記に統一しています。